

もっと身近に牛乳を

三重県立松阪高等学校 普通科 2年 北村 清香

私は牛乳が大好きです。

しかし、母が「最近、牛乳が高いからそんなに飲まないで。」と言います。私にとって牛乳の値上がりは死活問題です。

牛乳の値上がりの原因は原材料の高騰、配送料・燃料価格上昇、円安の進行、酪農家の経営状況の悪化、離農者の増加、消費量の減少などといわれています。

そこで私は牛乳離れを食い止め、消費量を増やす方法を考えてみました。

私は満1歳で牛乳が飲めるようになってからずっと牛乳が大好きです。しかし、16歳になる今までに周りの人たちが牛乳から離れてしまうタイミングが少なくとも2回ありました。

1回目は母乳・ミルクが終わって牛乳が飲めるようになる時。

1歳になり、いつでもどこでも牛乳を飲みたがる私に母は苦勞したそうです。外出先で簡単に牛乳が買えないからです。

ほとんどのお母さんたちは母乳・ミルクの次は子どもに牛乳を飲ませようと思います。

しかし公園、テーマパーク、児童館、外食先など、小さな子ども達が行くところで牛乳はなかなか買うことができません。そこでお母さんたちは水やお茶を家から持って行ったり買ったりします。牛乳は持ち運びがしにくいからです。こうして牛乳から離れてしまうのです。

このタイミングでの牛乳離れを防ぐには、牛乳をいつでもどこでも買えるようにすること、安全に持ち運びができるようにすることの2点が重要です。

この2点を解決するために、小さな子どもの行動範囲に牛乳の自動販売機を増やす、牛乳を安全に持ち運べる水筒の開発。全粉乳の普及はどうでしょうか。

私は全粉乳の存在を今回初めて知りました。粉牛乳は粉ミルク、フォローアップミルクを飲んでいた子、飲ませていたお母さんたちにすんなり受け入れられるとおもいます。

母も全粉乳の事を知らなかったそうです。「知っていたらあんなに泣かせずにすんだのに。」と言っていました。

子ども達が牛乳を飲むことによって、家族にとっても牛乳が身近になり、牛乳を飲まなくなってしまった大人達もまた飲むようになるかもしれません。消費拡大のチャンスです。

牛乳離れのタイミング2回目は中学を卒業して給食で牛乳を飲まなくなる時です。

私は高校のお弁当の時間にも牛乳が飲みたいので、毎日保冷バックに入れて牛乳を学校に持っていきます。1年生の時、給食と同じ大好きな地元の牛乳を飲む私を見て、友人が「なつかしい!」と言いました。ほんの数ヶ月前までみんなも毎日飲んでいたのに…。牛乳ジャンケンしていたのに…。

高校には私以外にも学校で牛乳を飲みたい人はきっといます。部活終わりの一杯はきっと最高

です。しかし私の学校では牛乳は売っていません。せっかく給食の牛乳を飲むことで戻った消費者がまた離れてしまいます。

友人や母は「前は牛乳飲めたけど、飲まなくなったら、たまに飲むとおなかがゴロゴロするんだよねー。」と言います。牛乳から離れてしまった消費者を戻すことも重要ですが、牛乳から離れるのを防ぐことも重要なのだと思います。

この2回目のタイミングでの牛乳離れを防ぐには、まず学校で牛乳を買えるようにすること。期間限定でいろいろな地方の牛乳が買えるようにするなどしても楽しいと思います。

また、牛乳について正しく学び、牛乳のメリットを知り、たくさんある飲み物の中で牛乳を選んでもらえるようにすることです。

残念ながら牛乳からいったん離れ、たまに飲むとおなかがゴロゴロするようになってしまった乳糖不耐症の人には少しずつ飲み続けることによって再びおなかをこわさず飲めるようになることをアピール。また、牛乳は良い腸内環境づくりに役立ち、便秘の改善に役立つとアピールするなど。もっと牛乳のことを知ってもらってまた好きになってほしいと思います。

これを書くために私は牛乳についての記事をたくさん読みました。知らなかったことがたくさんありました。

例えば、1歳までの子どもに牛乳を与えると鉄欠乏性貧血が起こりやすくなること、それを誤解した親が1歳以降も牛乳を飲ませることを敬遠してしまうことがあることなど。

私がどれほど牛乳が好きでも正しい知識がないと正しく勧められないのだと気づきました。牛乳は奥が深い。もっともっと知りたくなりました。

私は牛乳が大好きなので将来は牛乳に関わる仕事に就きたいと思っています。

1年を通して牛乳を飲みますが、季節によっておいしいと感じるメーカーが違います。その中でも私の大好きな地元の牛乳は1年中おいしい!!私はこの会社で品質管理の仕事がしたいと思っています。

こんな私のようにまた牛乳が好きになり、将来は牛乳に関わる仕事がしたい。酪農家になりたい。という人がいるかもしれません。そうなれば酪農家の後継者不足を解消したり、酪農の衰退を防いだりできるかもしれません。

この2回目の牛乳離れのタイミングは私たち高校生の将来を考えるタイミングとも重なりとても重要です。ここでまた牛乳を好きになった高校生が親になったら、その子どももきっと牛乳が好きになるでしょう。

もっと身近に牛乳を。

私は旅行先ではスーパーマーケットに立ち寄り、その地元の牛乳を飲むのが楽しみです。もし土産屋の片隅に「地元の牛乳集めました」のコーナーがあったら最高ですね。

そんなふうに私の大好きな地元の牛乳もたくさんの人に飲んでほしいです。